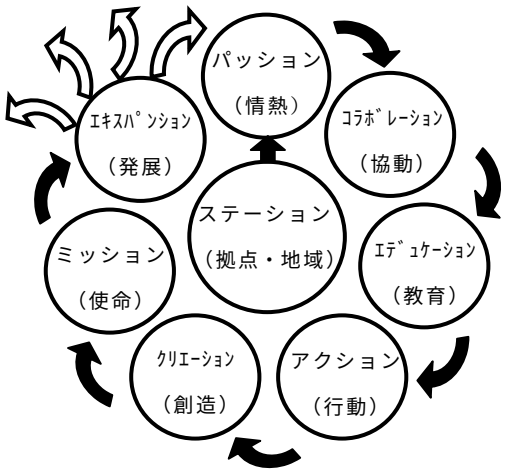
グラウンドワーク活動における８ローテーション
－三島市内境川・清住緑地を事例として－

8Rotation in Groundwork Activities
－Case study of the Sakai-River and Kiyozumi-Greenarea in Mishima－

○速水　洋志※、渡辺　豊博※※、加藤　正之※※※
HAYAMI Hiroyuki、WATANABE Toyohiro、KATOU Masayuki

１．はじめに

グラウンドワーク活動においては、ある**拠点（ステーション）**における、環境整備に対する住民の**情熱（パッション）**から始まり、**協働（コラボレーション）→教育（エデュケーション）→行動（アクション）→創造（クリエーション）→使命（ミッション）→発展（エキスパンション）**へと循環していく流れ**（８ローテーション）**が形成される。本報告は、三島市内の境川・清住緑地での活動を、各項目ごとに事例を示して紹介する。



図－１ ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞﾜｰｸ活動における8ﾛｰﾃｰｼｮﾝ

２．境川・清住緑地の事例

①ステーション（拠点、地域）：　境川・清住緑地の計画地は三島市の市街地の中にありながら、農村的景観が残る谷戸の地形をもった南北200m、東西30～70mの瓜形の土地で、上流部はハンノキ林の湿地、下流部は不耕作水田となっていた。水田耕作を行っていた頃は、多種多様な谷戸の自然環境が維持されていた。景観的にも、下流から見た時の水田と、その背後のハンノキ林が見事に調和して“ふるさとの風景”を創出し、納涼の散歩コースにもなっていた。

②パッション（情熱）：　三島市内では、悪化の一途をたどっていた水辺環境の再生を目指し、平成4年に新たな市民運動「ＮＰＯ法人グラウンドワーク（ＧＷ）三島」が誕生し、環境再生への**情熱的な思い**が活動の原動力になり、市内各地での環境整備がなされていった。平成7年に県土木事務所において治水目的の境川・清住緑地の整備計画がもちあがったのがきっかけとなり、地域住民が中心となり地域に親しまれる良好な水辺空間を創ろうという**情熱**が盛り上がり、新たなプロジェクトがスタートした。

③コラボレーション（協働）：　このプロジェクトは「**協働型の川づくり**」として位置付け、行政（静岡県・三島市・清水町）、地域（小学校PTA・住民・企業）の参画のもと「ＧＷ三島」はこれらのコーディネート役を果たした。それぞれの果たした役割は次のとおりである。

・行政－事業主体（県土木事務所）、後援（三島市・清水町）による費用負担、設計支援

※（株）栄設計（Sakae Sekkei Consultants Co.Ltd）　※※静岡県企画部（Department of Planning in Shizuoka Prefecture）
※※※（有）地域環境プランナーズ（Environment Planners Co.Ltd）
キーワード：グラウンドワーク　合意形成　ビオトープ

及び維持管理への協力
・地域－ワークショップ、学習会、ワンデイチャレンジへの参加及び維持管理
・ＧＷ三島－行政・地域との仲介・調整、ワークショップ、ワンデイチャレンジの主催

④エデュケーション（教育）： 計画地を、ビオトープを中心とした**環境教育**の場として捉え、小学生、PTA、住民を対象として次のような**教育活動**を行った。
・自然観察会－計画地を歩きながら、専門家の指導により生物生息状況を確認する。
・学習会－学識経験者による水辺環境整備、生息生物への基礎知識を習得する。

⑤アクション（行動）： 協働体制、教育体制が整ったところで、いよいよ整備に向けての**行動**を開始した。
・ワークショップ－情報収集、現状分析、課題の抽出を経て計画の住民案素案を作成する。
・基本設計－住民案素案をもとに県土木の治水計画をふまえた基本設計を作成する。
・実施設計－基本設計をもとに専門家の意見も取り入れ、再度ワークショップを行い、住民案（県の最終案）を作成する。

⑥クリエーション（創造）： **「清住緑地ビオトープ創り」**は２回のワンデイチャレンジを中心に行った。
・第１回ワンデイチャレンジ（H12/9/23）－整備計画で定めた施設のうち、田んぼや堆肥置き場などを住民達が手作りで創造するイベントとして行った。特に、子供達には、泥んこ遊び＝田んぼづくりとして、楽しみながら参加できる形態を用いた。
・第２回ワンデイチャレンジ（H13/3/3）－前回整地した土地を実際に田植えの出来る田んぼとして仕上げる作業や水田に必要な流入水路づくりに挑戦した。

⑦ミッション（使命）： 清住緑地ビオトープは創ったときが終わりでなく、維持管理を含めこれからの活動によるところが大きい。住民達が、自分が携わった場所に愛着をもち、生態系保護、環境整備に対して**使命感**が育まれることが第一目標である。
・インストラクター養成講座－将来に向けての維持管理の専門知識を習得するため、自然環境、ビオトープ、公園管理手法についての机上及び体験学習を行った。（８回開催）
・維持管理マニュアルの策定－維持管理についての指標として次の項目についてマニュアルを作成した。①管理項目（植生・水辺・清掃・安全等の管理、学習・文化・行事・広報等の活動）②管理組織③維持管理目標④ゾーニング別管理指針⑤維持管理安全マニュアル⑥自然人間共生マニュアル⑦生き物図鑑⑧管理システムの調整

⑧エキスパンション（発展）： 環境整備活動が一定地域、一定プロジェクト、一定の人々に限定したものであると、いずれ収束してしまう。他の地域、他のプロジェクト、各階層・各世代へと**発展**させるべきである。本プロジェクトも基は平成３年から始まった源兵衛川整備から**発展**してきたものであり、現在は学校ビオトープを始めとする他のプロジェクトへも着実に**発展**しつつある。

３．まとめ

本報告のように、グラウンドワーク活動は**ステーション**を核として、**パッション**から始まり**エキスパンション**へと回転するローテーションを構成している。この回転が、早い・遅い、大きい・小さい等の差があるにせよ、大切なことは、この回転を止めないことである。ＧＷ三島が過去１０数年にわたり、数多くのプロジェクトを実践してきたことは、この信念に基づいているものである。